

# 手をむすんで

H27.11

長野市  
環境ビジョン



山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

## 今年も大賑わい 信州環境フェア

長野県内の環境に関する団体が一堂に会し、情報が集まる「信州環境フェア2015」が8月22日・23日の両日、ビッグハットで開催された。ながの環境パートナーシップ会議では、会全体の展示と5つのチームが出展。各プロジェクトの実施、体験コーナーなどを工夫し活動をアピールした。その甲斐があつて、当会のブースは終日大賑わい。2日間で400名を超える盛況ぶりであった。

▶生ごみの削減・再生  
▼利用プロジェクト  
展示ブースとプレゼンテーションステージ生ごみ削減博士の学習会



▶市民の森づくりプロジェクト  
体験コーナー：ミニかんじき作り エコネコもお手伝い



▶小生物の育成環境保全プロジェクト オオムラサキの生態上映と写真展示 ・太陽エネルギー普及促進プロジェクト展示

◀レジ袋削減プロジェクト  
展示を見て真剣にクイズに回答する来場者



### 厳しい財政状況を踏まえた プロジェクト運営を

27年度の総会が、6月14日、長野市ふれあい福祉センターで開催され、26年度の活動概要、各プロジェクトの活動報告、収支決算報告・監査報告が行われた。金井代表からは、「27年度は、市からの負担金が減額されたので、予算は抑えた形で編成したが、活動はこ

れまで以上に活発化してほしい」との挨拶があつた。また、27年度活動方針として「つなぐ・つたえる・行動する」をキーワードに「会員の拡大」が提案され、各プロジェクトからは各々の活動計画案、予算案が提起された。質疑では、今後の会の運営に対して、「事業者との連携内容のアピール不足」「他環境団体との協働等による組織の充実を」「収入に対しての事務経費の

割合が多い。活動費に充てるべきだ」といった意見が出された。また、活動資金に対しては、「活動を停滞させないためにも他からの助成金の獲得等を視野に入れたプロジェクト支援を検討すべきだ」といった前向きな意見も提起された。

このように積極的な話し合いの後、議案は承認され、出された意見や提案は理事会で協議し、今後の活動に活かしていくことが確認された。（事業報告・新年度の計画・決算予算等はP会議のHPにアップされていますのでご覧ください。）

## 平成27年度総会開催

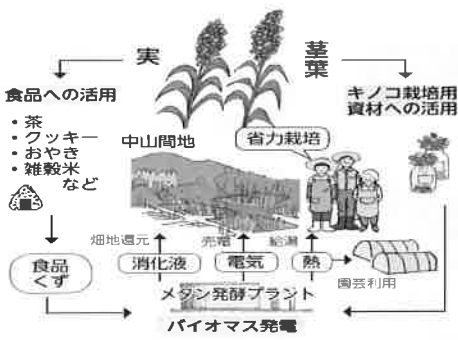
# 協働の取組みで地域の環境保全を

## 大学と行政 耕作放棄地等におけるソルガム活用調査

「ソルガム」って、ご存知ですか？「ソルガム」は、イネ科の1年生の穀物で、「モロコシ」「タカキビ」「コーリヤン」などとも呼ばれています。エチオピア原産で、遅くとも平安時代には日本に伝播した言われています。

「ソルガム」の実は食物に、茎葉はキノコの培地に、使用後の培地はメタン発酵によるエネルギーになるなど、多段階の活用が可能な資源作物で、乾燥に強く成長力が高いため、省力栽培が可能です。

また、「ソルガム」の実はアレルギー物質を含まず、ポリフェノールやGABA（ギャバ）といった高機能性物質



が豊富な健康食品としても活用が期待されています。そこで、長野市では、ソルガムの活用による新たな事業モデル



の創出を目指し、信州大学と共同で本調査事業の研究

これまでの調査の結果、市域でのソルガム栽培、茎葉のキノコ培地化、廃培地のエネルギー化については、事業化に向けて一定の成果を挙げることができました。しかしながら、実の食品利用については、安定した活用ルート

## NPOと行政 地域の資源循環を目指して 協働の取組みで生ごみ減量を

NPO法人みどりの市民は、ながの環境パートナーシップ会議の活動メンバーが、NPOの立場から長野市の環境保全に取り組んでいこうと平成15年に設立しました。地球環境問題を地域でも主体的に取り組む、人や自然に配慮した持続可能な循環型社会づくりを目指し活動しています。

当時、環境問題の中でもゴミ問題への関心が高く、生ごみの減量と堆肥化に対して積極的に取り組もうとしてい



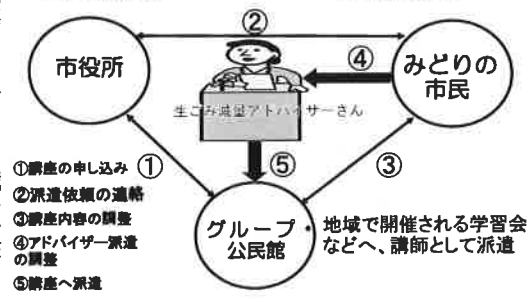
る市民が多いことを受けて、人材育成とごみ減量化・堆肥化の普及を目指した活動を始めました。平成17年、「長野市生ごみ減量アドバイザー派遣制度」が開始され、以来、

みどりの市民は市の委託業務を受け、行政と協働でこの事業に取り組んでいます。

この制度は、家庭から排出される生ごみの減量・堆肥化等に関する知識や技術を持つ方を「生ごみ減量アドバイザー」として、「市」が認証し、地域等で開催される生ごみ減量・堆肥化に関する学習会に講師として派遣するものです。

みどりの市民では、派遣するアドバイザーのコーディネートのほか、アドバイザーの資質向上を目的とした研修会や新たなアドバイザーを養成するための講座等を実施しています。

## 生ごみ減量アドバイザー派遣制度のしくみ



(NPO法人みどりの市民渡辺)

# 信大学学部「地域環境演習」の学生を受け入れ ～活動成果発表会開催～

ながの環境パートナーシップ会議では、信州大学工学部「地域環境演習」と協力し、毎年プロジェクトチームに同学部の学生たちを受け入れてます。今年は、4つのプロジェクトの活動を11人の学生が受講しました。

9月26日に「地域環境演習」の活動成果発表会が開催され、学生たちは取り組んできた半年間の活動成果を、パワーポイントにまとめて発表。ながのP会議のメンバーも発表会に出席し、成果発表の評価に参加しました。

若い世代の多くの気づき、発見、学びに触れ、今後の活動に新鮮なエネルギーをたくさんもらいました。

【地域環境演習】信州大学工学部では、国立大学で最初にISO14001を取得した経緯もあって環境教育の一環として、『ながの環境パートナーシップ会議』と協働し、2007年から地域環境演習を開催しています。今までのべ162名が受講しました。(内訳/地域環境演習Ⅰ：149名、地域環境演習Ⅱ：13名)

## 若いエネルギーを今後の活動に

### 4つのチームの活動成果発表の紹介

#### レジ袋削減チーム

1人が受講。活動は、レジ袋削減チームの他にみどりの市民と工学部ISO学生委員会の企画にも参加して、多角的なアプローチをした。その内容は、信州環境フェアでクイズによるプレゼンテーションや市民団体と連携したレジ袋削減のキャンペーン活動など。

工学部ISO委員会ではマイバツグ持参率の目標値を長野市の80%に對して、自分たちは90%を目指す



クイズによるプレゼン  
(写真提供工学部榊先生)

いう。こうした意欲的な態度に若いエネルギーを感じ



#### 子どもの環境学習支援チーム

参加学生は3人。海外との交流を通して長野を国際環境都市にという目的のもとに開かれた国際ユース環境会議にスタッフとして参加。鬼無里を会場にした会議の1日目は、太陽光・小水力発電の施設を見学。その後のワークショップでは、エタノール燃料電池などの原理と実践を高校生に説明。二日目はオーストラリア・ネパール・中国・フランスのユースとのWeb会議と講演。最後に、

自分自身に「未来への手紙」を書くというプログラムで幕を閉じた。充実した二日間を過ごした学生たちの顔は輝いていた。



全員でポーズ  
(写真提供プロジェクトチームより)

#### 聖山自然復元チーム

4名の受講者が、5月から毎月フィールドワークを実施し、その成果の発表をした。聖山登山と草原の植生調査は、土地利用の変化から在来種と外来種の混在を教えられたという。里山のあるべき自然復元を目指して植樹や伐採。そのためシードトラップによりブナの種子を集めて苗木育ての準備。木の葉

カード作りは楽しい方法であり、正確な同定が求められるという。苗木の植樹や播種など後期講座への希望もあり期待が広がった。



#### 生ごみの削減・再生利用チーム

受講生は3人。活動内容は、生ごみを堆肥化する段ボールコンポストに特化して研究。内容はビタピー5基材で堆肥化中に出る臭いの防止にリモナイト(土壌改良材や脱臭剤として使われる褐鉄鉱)で実験した結果をデータで示した。温度・pH・EC・臭いなどの計測と処理の方法などを課題として上げ、効率的な計画の必要性は大変納得できるものであった。(文責事務局)

#### 【活動から学んだこと】

他の人が行っていない新たな活動を行っていくには、うまくいかどうかわからなくても、とにかく行動してみる大切だ。これは、企画を立てるときにも言える。他人に協力を求めたり、活動を共にしてもらうときなどにもあてはまる。そして、形にしたい自分のアイデアを周囲の人に熱く発信し共感してもらうことが重要ではないかと思った。(受講生S君)

# つなぐ・つながる

このコーナーでは、環境活動をしている団体、施設及び他団体との連携を紹介いたします。

## 長野市立博物館分館

## 戸隠地質化石館

山々が色づき始めた秋の日に戸隠を訪ね専門員の古賀和人さんにお話しを聞きました。

〔設立の経緯についてお聞きします〕

「どうして戸隠山から化石が見つかるのか？」という疑問に答え、大地の生い立ちを自らの手で探る博物館として昭和55年（1980）に戸隠地質化石館が開館。学芸員を採用し、村としては全国でも珍しい認定博物館となりました。その後、戸隠村が長野市との合併により、化石の博物館が市内に2つとなった



化石展示室

ため統合し、平成20年（2008）に統廃合であいた小学校校舎をリニューアルして戸隠地質化石博物館になりました。

〔特色のある企画は？〕

なんとと言っても、豊かな自然に囲まれていることを生かし、自然観察教室植物観察会、地層見学バスツアーなど身近な自然に直接ふれる体験や自然への理解を深める企画に力を入れていきます。さらに、ミドルヤード体験と称して化石のクリーニングや、火山灰を洗って鉱物の観察、骨の標本にさわりながら脊椎動物の進化の不思議や体のしくみの秘密に触れてもらうこともしています。企画展は年3回開き、新館開館から足掛け8年で23回開催してきました。また、元小学校の校舎であったという特徴を生かして「昔の学校給食づくり」や「教材展」など工夫を凝らした催しも行なっています。

〔戸隠地域との関わりは？〕

化石が発見されたここ柵の地に建てられた博物館として、豊かな自然の只中でその秘密を探り、体験する拠点となる得がたい場所です。従って自然史を学ぶ博物館ではありますが、歴史、民族なども含めた地域の人たちのあらゆる疑問に答えることで信頼を寄せられてきたとの自負があります。おかげさまで今では住民の方たちにさまざまな面で、たとえば敷地周辺の草刈をしてくださるといったように支えていただいています。

〔自然とともに歩む博物館ですね〕

そうですね。様々なイベントによる体験や展示を通じて大地と自然の今と昔を知ってもらい、そこから未来を予

測して、博物館に関わるみんなが自然との共生の道を探っていくこうとしています。

〔この環境破壊の厳しい時代に果たす博物館の役割は？〕

お話ししてきたことを踏まえた上で、職員だけでなく、利用する全ての人が博物館を通してさまざまなことを発信していける、文化の拠点のような場所になるとうれしいです。

〔館内を案内していただいて〕

地質、化石の博物館ということから静寂な整然とした雰囲気を感じていましたが、展示物、収蔵品それぞれが生き生きとこちらに語りかけてくるようでした。訪れた子どもたちはきっと、何度も博物館のドアを開けたくなるのではないのでしょうか。

〔NPO法人みどりの市民TY〕

※ミドルヤード：フロントヤード（展示室とバックヤード（収蔵庫）の区画を超え、資料と親しみその魅力を発見する場所

### 事務局よりお知らせ

#### 環境団体大集合

平成28年2月14日（日）13時～16時半  
長野市生涯学習センター4階  
環境活動コンテスタを実施  
参加団体募集（詳細は事務局へ）

#### 会費と現在の会員数

会費 500円（年会費）  
会員数 104名

（11月1日現在）

### ながの環境パートナーシップ会議 （平成27年6月～11月の活動）

- 全体の活動
- 総会 6/14
- 理事会 6/6回（6/5、7/7、8/7、9/2、10/16、11/19）
- 信州大学工学部地域環境演習 9/26
- 環境団体大集合SPチーム会議（10/28、11/18）
- プロジェクト毎の活動
- 生ごみの削減・再利用 15回（例会、講座、視察、イベント参加他）
- レジ袋使用削減 15回（例会、毎月5日）
- ノーレジ袋デー、市民団体と意見交換会他
- 市民の森づくり 30回（例会、趣味の林業講座、市民の森の整備他）
- 太陽エネルギー普及促進 11回（先進地那須視察、例会、イベント参加他）
- 子ども環境学習支援 8回（例会、国際ユース環境会議2日間、報告会他）
- 聖山自然復元 9回
- 小生物の育成環境保全
- 光害対策

#### 《発行》

ながの環境パートナーシップ会議  
市民、事業者、行政の協働（パートナーシップ）により環境保全に取り組んでいます。

#### 《編集・事務局》

〒380-8512  
長野市大字鶴賀緑町1613  
長野市環境政策課内  
TEL 026-224-5034  
FAX 026-224-5108  
E-mail: kankyo@city.nagano.lg.jp  
URL <http://nagano-ep.net/>